祐善寺だより

第19号

発行日
2007年10月15日

真宗大谷派 祐善寺　住職/岡﨑　賢　福井県丹生郡越前町上糸生・森　TEL 0778-34-5170　FAX 0778-34-5170

法句シリーズ

何かをしよう
みんなの人のためになる
何かをしよう
よく考えたら自分の体に合った
何かがある筈だ
弱い人には弱いなりに
老いた人には老いた人なりに
何かがある筈だ
生かされて生きている
御恩がえしに
小さいことでもいい
自分にできるものをさがして
何かをしよう
一年草でも
あんなに美しい花をつけて
終わってゆくではないか

坂村真民

なぜ、御法事をお勤めするのか？ その②

住職　岡﨑　賢

先号のこの欄で書かせていただいた「なぜ、法事をお勤めするのか？①」には、多くの人からご意見をいただきました。〝ごえんさん、あれは書きすぎではないんですか〟という意見や、〝親の法事を勤めんという不届き者が居るんですか〟〝法事があることが知らんかった〟〝住職、もっと、はっきりと書いたほうが良い〟という意見等です。この『祐善寺だより』を創刊以来、毎号、この欄を書いてきましたが、こんなに反響が大きかったのは、初めてでした。

やはり、ご先祖や親の法事を勤めるという当たり前のことが、通じなくなりつつあるという現実に対する驚き・不安・同調等の観念が、皆様の中に入り乱れたのではないか、と思いました。

親が子を殺す・子が親を殺すということが日常的に横行する時代になってしまいましたから、子が親を偲んで法事をお勤めすることも、かすんでしまうのでしょうか？ましてや〝法事を勤めなくてもバチがあたらなかった〟となれば尚更でしょう。それでは、何故、法事を勤めねばならないのでしょうか？

私共は、今、この世に在って、皆自分の力で生きていると思っています。自分で呼吸をして、自分が努力して働いて金をもらって好きな生活をしていると思っています。それが、大きな錯覚であることに、なかなか気が付かないのです。

私共のいのちには、幾千幾万の親のいのちが詰まっているのです。自分の両親にはまた両親が居て、十代までさかのぼれば、千二十四人の親のいのちがつながっている、二十代までさかのぼれば、何と百万人以上の親のいのち＝御先祖のいのち＝仏様のいのちを頂いていることになるのです。そのうち、一人でも欠けていたら、今の自分のいのちは無かったのです。だから、尊いのです。だから、ご先祖に感謝して生きていかねばならないのです。親が勝手に産んだいのちではないのです。自分で努力しているから、今の自分があるのではないのです。その前に、仏様から賜ったいのちがあるのです。そのことに、ご法事を通して感謝申し上げ、ご法事を通してご先祖を憶念し、ご先祖からの呼びかけにうなずいていくのです。それが、人間が他の動物と根本的に違う営みと言って良いと思います。

ごまかしのしない人間としての行き方をしないと、ますます人間はけだものような生き物に落ちぶれてしまうのではないのでしょうか？だから、平気で親でも子どもでも殺してしまうことができるのです。ご法事をお迎えすることは、物心両面で大変なご苦労ですが、ご家族で力を合わせてご法事をお迎えすることは、家族と親族の連帯を深め、人間性復興につながる尊い営み（おつとめ）ではないか、と思うのです。

推進員養成講座後期講習

福井教区第四組推進員養成講座の後期講習が九月一日から三日までの日程で、東本願寺同朋会館で開催され、渡辺千代一氏と上野養治氏が参加して下さいました。お二人からご感想を寄せていただきました。

推進員養成講座受講の思い出

小倉　渡辺　千代一

新年総会時、住職より「養成講座」の案内があり、多くの人が「それは良いことで……」と賛同していた。

後日、住職より「どうしても養成講座を受けて下さい」と言われ、正信偈や御文等が少しでも修得出来れば、又、多くの人が参加するのであろうと思い「ハイ」と返事した。

第一回の受講で祐善寺仲間を探すが上野氏と住職夫妻にしか会えず、少し寂しい気持ちもあったが、住職夫妻が自分の前に来て「出席して頂き有難うございます」と頭を下げられ、これからも受講しなければと思った。毎回、住職か婦人が別院にこられ、励まされたので休まれもしなかったが、法事で一回休んだだけで別院での受講が無事修了した。

今回受講した仲間のほとんどが、東本願寺での二泊三日の後期講習に参加すると言われ、自分も何気なく希望した。何故なら正信偈を習いたい一心からである。（別院での正信偈は省略したもの＝同朋奉讃という勤め方）

しかし、東本願寺での講習でもやはり省略した正信偈（同朋奉讃）であった。期待外れである。講義内容も別院で習ったのと同じで講義を受けては講義内容の協議との繰り返しで座っているのが辛かった。（長時間同じ姿勢が出来ず腰が痛かった）それに新人僧が一〇〇人位おり、僧に似合わない髪型の人もおり、「こんな時代」なのかと心配したが、礼儀や挨拶はやはり僧は僧であると思った。

そんな辛い修行も規律正しい生活やテレビ、ラジオの無い生活を送り充実した三日間でした。特に教本や数珠を何げなく畳の上に置いたら注意されたり、本堂・仏間、食堂等の入口での一礼と合掌するなど、礼儀作法等を多く学ぶことが出来ました。又これから出来る、目指すことで「誓約書」に書いた毎日のお勤めは今のところ続いている。自分がお勤めをすると用事がすんでいたら嫁等が後に座るようになって来た。出来たら、子供にも参加してほしい願いである。

そしてテレビ等で孫と仏壇の前に手を合わせているのを見ますが、我が家にも孫と一緒に先祖のおまいりする光景が早くくれば良いと思う研修でした。

後期推進員養成講座に参加して

新庄　上野　養治

前期に続き後期の講座に参加しました。内容は、前期とあまり変わりなく、観無量寿経の解説と推進員との意見交換でした。私がこの講座に参加しようと思った理由は、正信偈や御文、恩徳讃、和讃、三帰依文等に書き表されていない聖人の心を聴聞したいと思ったからです。この点では、私にとっては満足出来るものではありませんでした。

私の子供の頃には祖母にあるいは、お寺での日曜学校でと仏教のほんの一端のことでも耳にしていましたが、今では私自身子供達に「仏の教え」について話をしなくなっていました。社会は現実主義であり、現在をいかに自由に、楽しく、自己主張し、名声を上げるか等が優先し、他の人に施すとか手助けするとか、思いやるとか、人を信じること等が「何か下心があるのでは？」と思われてしまう風潮です。そんな中で、仏教の心が僅かでもあれば上っ面の例え話としてでも噛み砕き、話が出来るのにと情け無く思います。

仏教はこの頃「葬式仏教」といわれていると聞きます。亡くなったご先祖は成仏しているのでしょうか。不断は御内仏にもお参りせず、仏事の時だけの事で、成仏できるのでしょうか。このような自分への問いかけが私にはあります。以上、このようなことは、仏教では全て私自身の因果であると説くであろうことは承知しています。

一方、東本願寺御影堂の修復現場を拝見すると、お布施をされている同行の皆様の仏教への信心の大きさに感動いたしました。親鸞聖人は真宗という他力で成仏する方法をお説きになり、沢山の人びとを救ってこられました。それから八〇〇年もの月日がたった今、私は親鸞聖人の御心がわかろうはずもありません。しかし、極めて驕慢な心ですが、学んでいきたいと思います。

推進員養成講座に参加して、このようなことを認識しただけでも良かったと思います。

本山での後期講習に参加された皆さん

真宗と他宗とは何処が違うのか

岡崎優大

宗教といっても様々な宗教があります。その宗教の中にも新興宗教のような宗教もあります。

一つには、祈願・祈祷・お祓い・占いなどによって思いを満足させようとする宗教です。この宗教の在り方は、家内安全や商売繁盛・無病息災などを神仏・祖先などに願い、そして自らの幸福を守ってもらおうとする在り方です。この在り方こそが、真宗と全く違う点であると私は思います。これは、自我(自分の我執)と欲望を満足させようとする宗教であります。

このような宗教を親鸞聖人は『偽り』の教えだと言われています。

二つには、逆に自分の自我や欲望を否定して自分自身を限りなく純粋化し高め、そして完成していこうとする宗教であります。座禅により覚ろうと禅や自力で修行する事によって自己の完成を求める天台・真言や禅。そして六根清浄を願う山岳仏教。または、倫理道徳の教え等も入るでしょう。真宗も天台の影響は受けているが、ここに入らないと私は思います。

これらは、自力に頼んで理想化した自分になろうとする仏道でありますが、自ら実践すればするほどその様にならない現実に苦悩していかなければならない道であります。親鸞聖人は、この苦悩の日々を棄てて比叡山を下りられたのだと思います。親鸞聖人はそれらを『仮』の教えだと言われています。真実の教えは、欲望を肯定する教えでも欲望を無理に否定する教えでもありません。私たち凡夫は、欲望・煩悩を断ち切る事は出来ないという事を思った上で、そのままの生き方で仏の円満な知恵に照らされて一切衆生を救おうとする仏の誓願の力によって支えられている自分自身が、何処までも聞法していく道である。これは、凡夫が阿弥陀の本願を聞法する一つで様々な人々に開かれている救いの道であります。親鸞聖人は、この事を『真実』の教えだと言われています。いつまでも「広海に沈没して名利の大山に迷惑」している身を恥じ、自他を傷つけずには居られない生き方を懺悔しながら、共に大いなるものに生かされている感動を讃え、生き生きとした世界(浄土)を歩んで行く道であるのです。

最後に真宗の教えというは、ただ念仏であると聖人は言われています。浄土真宗というのは、浄土こそ本当のよりどころであるという意味がある、と私は思います。

参考文献『銀杏通信』

大山貞子氏『私が歩いて来た道』を出版

越前町二ツ屋出身で現在、千葉県佐倉市在住の大山英昭氏の奥様の大山貞子氏が、文芸社ビジュアルアート社より『私が歩いて来た道』を出版され、当方にも一冊寄贈して下さいました。氏が見聞されてきたことを、俳句や詩を織り交ぜながら、エッセイ風に綴られています。

寺に置いてありますので、読書希望の方は、どうぞいつでも申し出下さい。

大山氏が出版された「私が歩いて来た道」

平成19年度護持費の志納よろしくお願いします

祐善寺を永代に亙って護持していただくために、護持費をお願いしておりますが、今年も次のとおりご志納下さいますようよろしくお願いします。

◇護持費の使途
- 報恩講の厳修費や教化事業の実施
- 本堂を守る火災保険や環境維持費用
- 本山相続講、福井教区賦課金等
- その他

◇年額
一戸平均　一〇、〇〇〇円

◇志納方法
- 寺へ直接志納する
- 秋まわりや法事で住職が貴家を訪問の際に志納する
- 地区の役員さんに志納する
- 郵便振替口座
(〇〇七七〇―九―三〇七二一
・加入者＝祐善寺)
へ振り込む

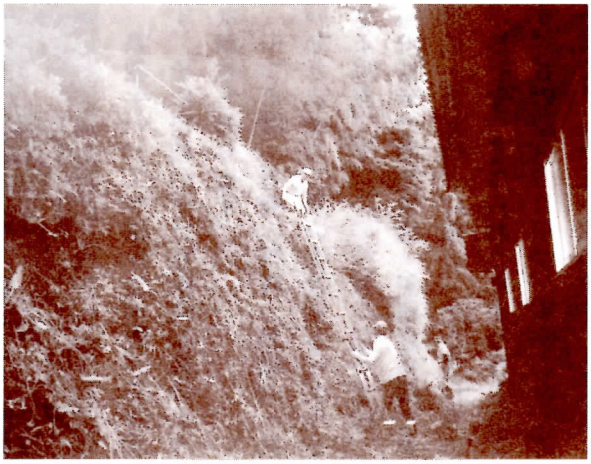
◇志納期限
毎年十一月末日

お疲れ様です！

炎天下で草刈奉仕作業

毎年梅雨明けを待って、炎天下の真夏の到来と同時に、寺周辺の土手や参道周辺の草刈りがご門徒さんを中心に行われます。

今年は、七月二十二日(日)に新庄地区のご門徒に役員さん有志が加わり十三名で実施されました。長雨の影響もあって雑草は伸び放題でしたが、皆さん炎天下に流れる汗を拭おうとせず奮闘していただいた結果、さっぱりとなって気持ちよくお盆を迎えることができました。本当にありがとうございました。



本堂裏の土手はそそり立っているのでハシゴをかけての草刈りになる

秋季彼岸会勤まる

本年の秋季彼岸会が去る九月二十三日、勤まりました。

参詣者全員で正信偈・和讃・念仏を唱和した後、住職による法話、その後横山・常光寺様が刊行されたDVD『お釈迦さまの一生』を鑑賞しました。

参詣された方々は、今年のお彼岸も元気にお寺にお参りできた、と喜んでおられました。

彼岸会で横山・常光寺様が発行された「お釈迦さまの一生」のDVDを鑑賞する

おたより

函館市の中山諦子様よりいただきました。（八月二日付）

暑中お見舞い申し上げます。

今年は大きな地震に二度も襲われ、大きな被害が出ましたね。お年寄りの方が沢山、家を失って、これからの生活の見通しがつかず、困っている様子で胸が痛みます。いつ、どこで起っても不思議ではなく、地震の起きる回数がふえているのが気掛りです。とりあえず、無事でいる事を感謝してます。

いつも「祐善寺だより」を送っていただきまして、有難うございます。楽しく読ませていただいてます。

まだまだ暑い日が続くことと思います。どうぞ御自愛下さいますよう願っております。　かしこ

投稿のお願い

この『祐善寺だより』の発刊を支えて下さるのは、皆様からの投稿やご協力が不可欠です。

どうか、日頃感じられている「宗教」の話や、社会の出来事についての感想、生活で感じられていること、本山や祐善寺に対してのご意見など、どのようなことでも結構です。どしどしご投稿下さいますようお願いします。

年忌法要をお勤め下さい

かけがえのないご先祖様の、今年の年忌は左記の通りです。貴家の過去帳をご確認の上、今、生かさせていただいていることを感謝し御先祖様の年忌法要を、是非とも勤めて下さいますようお願いいたします。

百回忌	明治四十一年没
五十回忌	昭和三十三年没
三十三回忌	昭和五十年没
二十五回忌	昭和五十八年没
十七回忌	平成三年没
十三回忌	平成七年没
七回忌	平成十三年没
三回忌	平成十七年没
一周忌	平成十八年没

第4回 御文講座

白骨の章(4)

さてしもあるべき事ならねばとて

しかし、そのままにしておくわけにもいきませんので

野外にをくりて

野辺(火葬場)に送って

夜半のけふりとなしはてぬれば

夜に火葬しても煙になってしまうだけで

ただ白骨のみぞのこれり

あとには、ただ白骨だけが残るだけです。

あはれといふも中々をろかなり

これは、あまりにも哀れなことであります。

其の15

仏事一口メモ

お内仏

真宗では、従来から「お仏壇」のことを「お内仏」と呼びならわしてきました。これは単に、他宗の仏壇と区別するために、名称を変えてきたということではありません。「お内仏」と表現することで、浄土真宗独特の意味(宗風)をいただいてきたのです。

お内仏は、ご本尊をお掛けして礼拝勤行し、仏法を聴聞するところから出発しました。ご本尊をお掛けしたところは、すべて仏法聴聞の場であったわけです。そのようにして、お内仏の前で、生れた意義と生きる喜びに目覚める人生を学んできたのです。

ところで、仏教の歴史や昨今の宗教事情を振り返ってみますと先祖供養や追善供養あるいは現世利益をことさらに説くものが数多くあります。これには、さまざまな苦しみや身にせまる災いから逃れるための祈願の宗教といえましょう。

ところが浄土真宗は、祈り願うことしかできない私たちの生き方や自らの愚かさ、そして驕り高ぶる私の姿が知らされ、念仏を申すことで救われつつある自己に目覚めていく教えです。

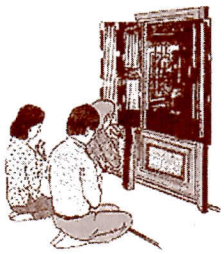
熱心な真宗門徒のご家族では、お内仏の前で朝と夕方、「正信偈・念仏・和讃」の勤行と「御文」(蓮如上人のお手紙)の拝読を日課としています。つまり、合掌礼拝と仏法聴聞をかかさないわけです。

このような生活の中で、自らのご本尊(本当に尊いこと)を確かめ、そして自らの生きる方向を確認してきたのです。お内仏が生活の中心、いつでも帰ることのできる心の拠り所になっているのです。

ここまで申し上げれば、お内仏はご先祖を安置する壇(先祖壇)でもなければお願い事をする壇(依頼壇)でもないことが知らされましょう。ましてやインテリアでないことも。

お内仏は、お一人お一人の内なる仏さま・ご本尊に気づけとの促しです。そう気づいてはじめて、ご本尊をお掛けするお内仏が生きてはたらいてくるのです。

『サンガより』



お知らせ

報恩講御案内

十一月二日(金)

日中　午前十時

御斎　午前十一時半

逮夜　午後一時半

満座　午後六時半

布教・南居　陽願寺様

つきましては、親鸞聖人の御遺徳を偲び、右のとおり報恩講を厳修いたしますので、万障お繰り合わせの上、御家族、御近所、御法友お誘い合わせの上、何卒御参詣下さいますよう御案内申し上げます。

雪囲い作業ボランテイア募集

積雪期を控えて、雪囲い作業をおこないます。近年、積雪量は少なくなって来たとは言え、本堂の大屋根に積もった雪が落ちると境内は大きな雪の山になります。

今年も、左記の通り雪囲い作業を行います。寺周辺の過疎化やご門徒さんの高齢化等で、作業に参加していただく方が減ってきましたので、広くボランテイアを募集させていただきますので、よろしくお願いします。

雪囲い作業は初めての方でも、高所が苦手な方でも、色んな作業がありますので、是非ご協力下さいますようお願いします。

記

とき　十一月十八日(日)　八時集合

持物　軍手、鎌(もしくはナイフ)

申込　合羽(悪天時)

十一月十四日までに寺までご連絡下さい。

保険　傷害保険に加入しますので、併せて生年月日もお知らせ下さい。ご協力をお願いします。

入門 介護保険⑲

新予防給付

昨年の介護保険法の改正により、介護保険の給付が2種類に分れました。

一つが、要介護者を対象とした介護給付で二つ目が介護保険の給付の対象にはなるものの、利用者の状態が安定していたり、サービスを提供することにより、今後、自立した生活を送る見込みのある方を対象とした新予防給付です。

新予防給付は、介護認定申請を行い、介護認定審査会で要支援1、又は要支援2と判定された方が対象となります。

新予防給付の介護予防ケアマネジメントは、市町に設置されている地域包括支援センターが行います。

新予防給付のサービスは、介護予防通所介護や介護予防訪問介護、介護予防住宅改修、介護予防福祉用具貸与等十五種類あります。

そのうち、介護予防福祉用具として借りられる物は、手すり・スロープ・歩行器・歩行補助つえです。今まで、電動ベッドや車イス等が借りられましたが、今回の改正により、要介護2以上からの利用となりました。

編集後記

★今年の夏、私は大変感激したことがあります。若くしてご主人を亡くされた奥様が初七日でお参りした日に、「主人が残されたもの(財産)で、一番初めにお仏壇を求めようと思うのです。主人が一番喜んでくれるだろうと思って…」とおっしゃって下さいました。まだお若いご家庭には、お仏壇(お内仏)が無かったのですが、ご主人の死を契機に一番初めにお仏壇を求められました。それも、「主人が一番喜んでくれるだろうと思って…」と愛情と感謝の気持ちが、いっぱい込められているではありませんか?仏を思う心は、ご先祖を大事にする心は、年齢なんかに関係ないのだ、とその時痛感しました。「何故、法事を勤めるのか」という題で二回書きましたが、どうか今一度、ご家庭で、お仏壇(お内仏)を中心の生活に戻して頂きたいと強く念願します。

★暑い暑いと言っているうちに、もはや報恩講の時節になってしまいました。よろしくお願いします。皆様のおうちでお勤めしていただく報恩講は、この一年を感謝しながら、お迎えしていただきたいものです。